

『花を訪ねて： 山櫻』

## 高尾山・一丁平山行報告（平成 31 年 04 月 06 日）

3月のビスターリ例会で櫻の花見は「高尾山・一丁平」に決まった。私のみ“行きはケーブルカー”を利用してもらうことにした。それでも約100~130m位の登りが往きで2回ある。一応3月中旬に事前に脚調べをしておいたが、問題は、今や“お花見時期”で、ケーブルカーが混雑して長時間待たされないかという点である。それで念のために前回より約15分早目に自宅を出た。

乗り継ぎは順調にゆき、7時30分に高尾山口駅に降り立った。まあ予想していたよりも人が少ないので一安心。川沿い及びケーブルカーの「清滝駅」の前では満開の櫻の木が出迎えてくれた。駅前では待つ人は予想外に少なく、しかも定刻は“8時発”のところを、気をきかせて15分前の7時45分に一番ケーブルカーを発車させてくれた。有難いもので、約6分で高度差270mを上って海拔470mの上駅についた。このケーブルカーは最大斜度約38度で国内最大の急傾斜を誇るそうだ。

準備をして8時少し前にケーブルカー上駅を歩き出す。少し春霞はあるがくっきりした雲のない青空で気持ちが良い。最初しばらくは緩い登り道で、道脇にシャガ、ミヤマシキミの白い花を見つけた。薬王院の階段下に着く。ここから奥ノ院経由だと急勾配の階段などがあるので、今日は鳥居前から左の細い道をたどることにする。この道は大きく山腹を巻いて長いがゆっくり登って行くので、比較的楽であった。山頂すぐ手前の明るい道の脇に、たった2株であったがカタクリの花を見つけた。ここからはすぐに坂道を登って、8時50分高尾山の頂上に着いた。130mの登りを50分で来たことになる。展望台からは富士山が少し霞んではいるものの、くっきり見えた。高尾山頂上で伊藤さんにメールを送ったら（8時55分）、直ぐに「9時に高尾山口駅を出発します」と返事が来た。

写真を撮って9時5分に下りだす。「もみじ台」手前の十字路から前回調べた北側の巻道を下る。北側斜面なので、随所にタカオスミレ、タチツボスミレ、ナガバナノスミレサイシン、“まむし草”（正式名はミミガタテンナンショウと言うらしい）の野草を会うことができた。坂下の最下点から再度登りにかかる。

送電線鉄塔を過ぎると櫻の木が目立つようになった。かなりの老木で枝の張りはあまり良くない。約100mの登りをこなして、9時45分に「一丁平」に着いた。有難いことにここには東屋、トイレに加えて、多くの木製のテーブル・ベンチが設えてある。山櫻は五分咲きと言ったところか、里櫻は満開になっていた。

早速「一丁平」でテーブル・ベンチの一つを確保する。“花見”に場所確保は絶対条件である。10組くらいあるテーブル・ベンチはあらかじめ塞がっているが、まだ空きはあった。“満開の櫻の木の下の特等席”では、男女10人位のグループがもう既に鍋の良い匂いをまき散らしていた。始め満開の櫻の木に近いその隣のベンチにしようかと考えたが、匂いが風下に流れてくるので、ずっと離れたベンチにした。テーブルの上に水筒やいろいろな物を広げて、“示威行動”をする。

コーヒーを飲んだり本を読んだりしていたが、皆さんなかなか現れない。“9時に高尾山口を出発したら約2時間で11時頃ご到着”と予想していたら、11時頃伊藤さんから再度メールで「今、稲荷山コースの終点でこれからそちらに向かいます」との連絡がきた。それではここへのご到着は11時半ころだなど、一応安心する。結局皆さんは11時40分に到着した。

一方登山組は高尾山口駅に9時に集合予定であったが1名足りない。しばらく待ってこちらから連絡したところ寝過ごしたとのことであったが、せめて連絡が欲しかったところだ。さて、そんなことで出発が遅れて、9時15分ごろ3名で出発した。快晴の土曜日とあって登山者は多いが、心配した大混雑というわけではない。陽田さんがすでに山頂を出発しているので待たせてはいけない、とは思うものの荷物も重いしゆっくりと登り、10時15分に稲荷山の展望台に到着した。風が心地よく東京方面が良く見えるが、今日は暑いくらいで春がすみのせいか遠方は霞んでいる。

一休みして歩き出すが高尾山までまだ先は長く、若者の団体やトレランの人などに次々と追い越される。11時によりやく山頂手前の階段にたどり着いたが、富士山も見えないしと、全員一致で巻道を選び山頂はパスした。巻道からメインルートに復帰し、もみじ台を過ぎるとどんどん下りとなった。久しぶりの道だがこんなに下ったかなと帰りを心配しながらさらに下る。下りきると今度は上りとなる、もっと平らな道だと思ったが記憶はあいまいなものである。お腹もすいたし疲れても来たが、ツツジや桜の花を眺めながら11時40分に一丁平に到着陽田さんお待たせしました。ヤマザクラは少し早いがそれなりに咲いていて、たくさんあるテーブルではすでに宴会を始めている人も多い。

さあ、皆さん揃ったので、テーブル一杯にラジウス、料理材料を広げる。今日は“すき焼き鍋”だ。こちらの良い匂いをまき散らすぞ。今日は花見だからお酒は多い筈だが、皆さん節制してか、日本酒四合瓶一本を気持ちよく空けただけだった。とはいえ、普段全く飲まない2人も、あまり飲まない私もそれなりに美味しいお酒をいただいた。材料も一人減った分が他の人に回り、肉も野菜もしこたま頂戴することができた。以前「肉は少な目、野菜は多目」という話があったそうだが、今後再確認せねばならないだろう。雲一つない快晴のもとで御馳走になり、最後は三浦さんのコーヒーで締めた。

少し昼寝もしたくなかったが、14時にお開きにして、14時10分に出発する。あまりに腹いっぱい食べたので動きが悪い。15分で“最下点”に到着し、登り返しは北側の道をたどることにする。日陰の道の脇のスミレなどの花を探しながら歩く。もみじ台を巻いて坂下へ出る。5号路を稲荷山コースの出発点（高尾山の階段下）へ出る。

3分ほど休憩して稲荷山コースを15時に出発した。順調に下り、15時半に「展望台（稲荷山）」到着。15時45分に小ピークを通過して、16時18分に高尾山口駅に戻ってきた。お腹がいっぱいだし三浦さんのお相手をする人もいないので、珍しく反省会無しで帰ることにした。その後は16時25分発の準特急に乗り、明大前駅で流れ解散した。

快晴の青空の下で、花を愛でながらのこのような集りは良いものだ。皆さん有難うございました。次は何時参加させていただけるか気になるが、自分の脚力との相談なのであまり無理はできない。

以上 陽田（一部 伊藤）